

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401780		
法人名	有限会社 くらはら		
事業所名	グループホーム あざみの里		
所在地	長崎県南島原市深江町戊3124-3		
自己評価作成日	令和6年6月27日	評価結果市町村受理日	令和6年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和6年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「時間をかけて見守り声かけて付き添う、拘束のない介護、個人生活の継続」を全職員が意識しながら、利用者様一人ひとりに合った支援を話し合い、共有して日々のケアに努めています。利用者様が家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるよう、そしてご家族が面会に来やすい雰囲気作りを心がけてます。食事も旬の物を取り入れながら季節感も味わって頂いています。七夕やひな祭りなどのイベントの食事会や、外庭で外の空気を吸いながらおやつ会など、喜んで頂いていますが、今後も利用者様が楽しめる催し物を増やしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初の頃と比較して入居者の高齢化及び重度化が進み、以前のように料理を作ったり、掃除をしたりと、入居者自身に役割を持ってもらうことが少なくなったが、食事の後片付けや洗いものを行ったり、自力で浴室の湯舟に浸かることが困難な方には、機械浴のリフトを使用し、職員の負担軽減と入浴を楽しめる支援に繋げている。日中はリハビリパンツから布パンツに移行できるよう排泄の自立を促し、ホームの理念「時間をかけて見守り声かけて付き添う・拘束のない介護・個人生活の継続」に基づき、施設長をはじめ職員が一丸となって入居者それぞれに応じた支援に努めている。毎日の食事は本人の嗜好や希望に沿ってホーム内にて調理し、季節に応じた行事食や、入居者一人ひとりに合った食事形態にて提供されている。介護福祉士を取得している職員が従事され、勤務歴も永く、明るく楽しく働くことができる職場で、家庭的な雰囲気の中で入居者が安心して暮らせるよう支援されているのが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人生活の継続という開設当時の理念のもと、入居者一人ひとりが、日々、安心、安全に過ごせる様、支援に取り組んでいます。	施設内の数か所に掲示し、全職員がその理念を念頭に置き、共有し、日々、実践につなげています。	理念は介護の基本である事を職員が理解し、日々の支援に努めている。入居者個々に合った支援や、入居者が楽しく安心して生活できるよう、ホーム内外の行事や地域との交流など、理念を念頭に置いた支援に努めている。月曜日の朝礼時に理念を唱和したり、新人職員に対し入職の際に理念を説明している。理念はいつでも確認できるよう事務所や玄関、リビング等に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板や、地域の清掃にも参加している。又、地区の小学校の訪問や、運動会にも参加している。	自治会に入り、回覧板を回したり、地区の小学生との交流などつながりを大事にしている。そして地域の一員として、防災ガイドマップに第一避難場所にもなっている。	コロナ禍前は、ホームの敬老会や戸外での食事会など、地域住民を招待し交流していた。同地区の小学生が訪問したり、運動会に招待されるなど交流していたが、最近はコロナが再燃し、また入居者の重度化もあり、運動会などの参加は困難である。地域の清掃活動や市の防災計画に第一避難場所として指定されており、地域との繋がりを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事や催し物に近隣の方々を案内し、食事会や演芸会など行っていたが、コロナ発生で中止になっていた。様子を見て、再開して、認知症の人の理解や支援を行っている。有事の際は、避難先としても指定されている。	新型コロナ禍以降、地域の方を招待しての行事が出来ていないが、地域の方が認知症の人の理解や支援を、地域の人々に向けて催し物などをしていこうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。家族、地域の代表と、行政職員が参加され、利用者の状態や、行事等を報告し、話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。令和4年度は新型コロナ感染拡大防止の為、書面での報告が多かった。令和5年度は、7月と3月、施設内で感染の為、書面にて報告しました。	運営推進会議は、2ヶ月に1回の予定で開催しているが、新型コロナ感染や、その状況次第では書面にて、利用者の状態や行事等を報告している。報告書に対してアンケート用紙を作り、ご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	コロナ禍により令和4年度、5年度は書面による運営推進会議を開催した。会議ではホーム行事や、入居者の状態などを報告し、行政職員や地域代表より意見や助言を得て運営に活かすよう努めている。地域代表が元看護師とのことで、入居者の状態に関する医療面で心配なことはいつでも相談できる関係を築いている。会議ではBCP(業務継続計画)作成状況に関する報告も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、日頃から連絡をとり、事業所の実情や、相談を行い、行政の情報を得たりして、協力関係を築くように取組んでいる。	市町村の担当者とは、日頃から連絡をとり、事業所の実績の報告や相談事や分からない事があれば、連絡をとり、協力関係を築く様に取り組んでいる。	市担当者より介護保険法の改正に伴う書類作成提出や、各種助成金、研修案内など、適宜情報を得ている。社会福祉協議会の成年後見制度の利用や、市の生活保護対象者の定期確認のほか、ホームの空き状況に関する事など関係機関と相談や協力できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員が外部研修に参加したり、勉強会を行い、全職員が知識を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、リモートでの研修の参加や、施設内での勉強会を開き、禁止の対象となる行為を正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームに身体拘束委員会を設置し、ホーム内外の研修に職員が参加し身体拘束の弊害について学びを深めている。研修資料は分かりやすく、日頃の支援に直接関係する声かけや無意識にやってしまう行動などイラストで事例を上げ示されている。職員会議でも気になる事は互いに意見を出し、身体拘束、虐待に対する職員意識向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を防止するための定期的な研修を実施するために、担当者を設置し、外部研修や、内部研修を行い、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされない様注意し、防止に努めている。	全職員が、高齢者虐待防止関連法について、施設で勉強会を開き、学んでいる。高齢者への虐待が見過ごされる事がなく、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する研修会を受講し、職員会議で資料を配布し、学びを共有し、理解に努めている。	管理者や職員は権利擁護について学ぶ機会を持ち、成年後見制度を利用する方について関係者と話し合い、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時、重要事項説明書で、契約内容を十分に説明を行い、利用者、家族の不安、疑問点を尋ね、説明し、ご理解、納得を図っている。	入居時の契約時や、改定の際は、利用者や家族等に十分に説明を行い、ご理解、納得を図り、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との信頼関係を構築できる様、心がけている。意見はいつでも管理者や職員に話して頂き、また外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族等が、管理者や職員に意見や要望を離して頂き、外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に本人の情報提供を基に、理念でもある「個人生活の継続」を把握した上で支援に活かしている。月に一度家族に同行してもらい、他の施設に入所されている親族と面会できるよう支援したり、遠方の家族にはテレビ電話を使用し近況を報告するなど入居者、家族の意向を踏まえ支援に努めている。運営推進会議には家族の代表も参加している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議での意見をまとめ、その都度、代表者や管理者と話し合っている。	毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞き、代表者や管理者はその都度話し合い、反映させている。	毎月の職員会議や申し送りノートを活用し、日頃から職員間の連携に努めている。入居者の状況や、物品購入、勤務シフト等、施設長に直接相談できる関係が構築され、即応してもらえる風通しの良い職場環境ができています。職員は永年勤務している方が多く、職場が明るく楽しく居心地の良い雰囲気であることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の有する能力や実績、勤務状況を把握し、職員がいきいきとやりがいや、向上心を持って働ける様、職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の努力や、実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場環境を充実させている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、施設内外の研修を受ける機会を増やす。受けた研修の報告会を開き、他の職員にも知識を共有し、全体のレベルアップにつながるよう考えている。	代表者は、管理者や職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、研修会への参加や、資格取得への協力をやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加して、交流する機会を作り、ネットワーク作りや意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	今はリモートでの研修や、会議に参加する機会を作り、同業者との交流を増やし、サービスの質を向上させる様取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、多くの情報を集め、しっかりとアセスメントを行い、本人が困っていること、不安なことに耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人が困っていることや、不安なことを聞き取りを行い、不安材料を少しでも減らせるよう安心できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の1か月間程度は、時間をかけて、ゆっくり支援しながら「その時」必要な支援を見極め、他のサービスを含めた対応に努めている。	本人とご家族が必要としている支援を見極め、1か月程はゆっくり時間をかけ支援し、他のサービスを含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を導き、手伝いや一緒に1日を過ごしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者に役割を持って頂き、手伝ってもらったり、支え合いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、状況をお話して、本人と家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時等、家族との関係を大切にしながら、状況を伝えゆっくり会話できるよう支援しています。遠方のご家族へは、写真や動画を送り喜んで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた土地へ出かけたり、ご家族、友人知人の面会など、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	馴染みの場所へドライブへ出かけたり、知人、友人の面会時、思い出の話をしたり、大切にしてきた場所や人との関係が途切れないよう支援に努めている。	入居者が以前居住されていた場所までドライブに行き、本人が懐かしく思い出話をされるなど、これまでの関係が途切れないよう、理念にもある「寄り添う支援」に努めている。親族の葬儀にはコロナ禍で参列が困難な中、大切な方との最期の別れの為に、感染を避けるために葬儀前に弔問に職員と同行し焼香するなど配慮し、寄り添う支援の実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共有の場所、座る位置を考慮し、一人一人が孤立せず、利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず関わり合い、楽しく過ごしながら、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部でお会いした時は、挨拶し近況を伺い、これまでの関係を大切にしながら、ご家族がなんでも相談できるよう、フォローや支援に努めている。	サービス利用が終了しても、本人や家族の経過を聞いたりしながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしを尊重し、希望、意向の把握に努めている。言葉を表す事ができない利用者は表情や身体の状態を観察し、理解を得るよう努力している。	一人ひとりの思いや暮らしを尊重し、希望、意向の把握に努めている。難聴の方へは筆談にて、理解を得るよう努めている。	職員は難聴の方に対し筆談を用いたり、意思疎通が困難な方には日頃の状態を把握し、コミュニケーションの取り方を工夫しながら思いや意向を汲み取るよう努めている。入居者と家族との電話の際は職員が中を取り持ってスムーズに会話できるよう支援している。視覚障がいがある方には献立や食事形態に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を家族から伺い、情報シートに記入してもらい情報収集に努めている。	利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境など本人や家族に伺い、情報シートに記入して頂き、情報収集し、それに近いより良い生活の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人のペースでの過ごし方、心身状態、持たれている力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態等、個人のペースで生活できるよう支援し、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングから、何かあれば、本人、家族と話し合い、課題とケアのあり方をケース会議で話し合い、全職員で共有して、介護計画を作成している。	毎月のミーティングで、個々の状態や支援方法を話し合い、見直している。本人や家族の状況に応じ、支援方法を考え、介護計画を作成している。	入居者へのアセスメントを通じて課題を抽出し、本人、家族の意向を踏まえた介護計画を立案している。入院後や状態変化の際、及び毎月のモニタリングや担当者会議で見直しを行っている。介護計画に基づき、全職員が共有して支援に努めている。尚、今後、第1表の「利用者及び家族の生活に対する意向を踏まえた課題分析の結果」に盛り込むことが望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきや、ケアの実践・結果を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り帳、個人記録を活用し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。	ミーティングの時、支援方法について話し合い、本人、家族の状況に応じて、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小、中学校の福祉体験や学習発表や自治会との関わりで本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の小学生の訪問でのレクリエーション等で本人が心身の力を発揮しながら参加され、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を重んじ、かかりつけ医との良い関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族希望のかかりつけ医と関係を築き、定期受診、緊急時にも対応して頂ける様支援している。	受診には職員が同行支援しているが、中には家族が付き添う場合もある。入居前のかかりつけ医の受診を基本としているが、それ以外に予防接種や緊急時の対応を近隣のクリニックと連携する協力体制を築いている。近隣の医療機関と連携することで入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の状態や体調は、職員で観察し訪問看護師等に伝え、相談しています。	日常生活で状態の変化に気づき、職員間で報告し、訪問看護師に伝え、相談し、適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、今は面会ができないが、病院関係者との情報交換や相談を行い、病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療ができるよう家族、病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように、病院関係者との関係づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、家族は可能な限りホームで過ごしてもらいたいと意向はあるが、かかりつけ医と話し合い、施設で出来る事を理解して頂き、対応・支援に取り組んでいる。	入居の際、重度化した場合の施設で出来る事を説明している。重度化した場合、かかりつけ医と話し合い、家族へ施設で出来る事を理解して頂き、対応・支援に取り組んでいる。	開設以来、看取り支援は実施していない。今まで老衰も無く、重度化した場合は家族との話し合いのもと医療機関に入院となり看取り支援に至ったケースはなかった。現在、職員の看取り支援に対する意識や体制が整っていない状態とのものである。家族には入居時にホームとして出来ることを説明し、理解を得よう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応、感染症に対する処置等、実体験を支えに、勉強会や訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練は年2回行い、自然災害も、業務継続計画(BCP)を作り訓練を行っている。地域のハザードマップに第一避難場所に指定され有事の際は、地域の方との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を行い、災害に対応できる様、訓練をしている。災害時には避難場所になっている。	毎年度、夜間帯を想定した避難訓練を実施されている。職員は水消火器を用いた消火器操作の経験がある。ホームは第一避難場所として指定を受け、地域にも協力している。今年度はBCP(業務継続計画)に沿った訓練を予定されている。	避難誘導の際にかかった時間を計測しているが、報告書等の記録に残すと共に職員にも周知し、避難時間の目標設定や避難時間の更なる短縮、要因解析に活かせるよう具体的に取組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、身体状態に応じたプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、身体状態に応じたプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ホームには虐待防止委員会を設置し、内外の研修にて排泄介助の際の声掛けや失敗時にさりげなく支援するなど配慮している。職員は親しみのある言葉や声掛けで接しながらも年長者に対しての声掛けであることを意識した支援に努めている。入浴介助の際にも個浴にて羞恥心に配慮している。	ホームの運営規程第15条に「職員は、業務上知りえた利用者又はその家族の秘密を他に漏らしてはならない。なお、退職後も同様とする。」と明記されており、あらためて職員へ周知徹底を図ると共に、個人情報保護法や厚生労働省が定める個人情報取り扱いに関するガイドライン、社会福祉士及び介護福祉士法第46条等、関係法令を確認し個人情報保護の遵守に取組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定ができる様、働きかけている。	日常生活の中で、利用者が思いや希望を表したり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活ペースに合わせて、その人の思いに寄り添って支援している。	利用者一人ひとりのペースで、どのように過ごしたいか、希望を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、入浴時は、本人の好みの服を選んで、おしゃれを楽しまれる様、支援している。	外出時や行事等、本人の好みの洋服を選んでいただき、おしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど利用者と職員と一緒に、職員も一緒にテーブルに入り、楽しく食事が出来るようにしている。	旬の食材を使い、皮むき等の準備を職員と一緒に、楽しく食事が出来る様にしている。	食事はホーム内で調理し、入居者の嚥下状態に応じて医療食やソフト食を提供している。旬の食材を使用し、行事食や土用の丑の日には鰻を提供されるなど季節感も考慮している。以前のように食事を入居者と一緒に調理することは困難になったが、テーブル拭きや野菜の皮剥き、食器洗いなど、その方ができる事を支援している。職員も食事を一緒に摂り食事を楽しめる支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスがとれた食事と、水分補給の摂取にも注意して、一人ひとりの状態を見ながら支援している。	食べる量や栄養バランス、水分量が確保できるよう、一人ひとりの状態や好まれるも物を提供する等、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとり口腔ケアをして頂き、口腔内の衛生面に気をつけている。	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアの支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやリハビリパンツの使用を減らし、日中は布パンツとパットを使い、トイレ介助を中心にして、自立に向けた支援をしている。	一人ひとりの排泄間隔を把握し、日中はトイレ使用での排泄の自立に向けた支援を行い、パットの使用を減らしている。	入居者個別に排泄チェック表を作成し、本人の表情や行動を把握しトイレ誘導を支援している。日中はオムツやリハビリパンツを布パンツにて対応するなどコスト削減に繋げている。入居者にとってトイレの場所が分かるよう大きく矢印で表示して見当識障害に配慮し排泄の自立に向けて取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、個別に食前にヨーグルトを提供して、工夫したりして予防に努めている。	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食前にヨーグルトを提供したり、運動への働きかけ等、個々に応じた予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に合わせて入浴して頂き、湯船にゆっくり入って頂ける様支援している。	本人の体調や希望やタイミングに合わせて入浴をして頂いている。	本館の入浴は火曜日、木曜日、土曜日、新館は月曜日、水曜日、金曜日の週3回実施している。本館にはリフト機械浴があり、自力で入浴が困難な方に支援している。現在5名の方がリフトを利用しスムーズに湯舟に入ることができ、職員負担軽減にも繋がっている。失禁等があった場合も入浴できる態勢で、体調不良により入浴できない場合は清拭対応を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な活動を促し、生活にリズムを作る事で、安眠できる様に支援している。	日中、適度な活動や生活習慣に合わせた生活リズムで、休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握し、いつでも確認できるファイルに保管し、変更があった時には情報共有し服薬の支援をしている。	職員は薬の内容を把握し、いつも確認できるようファイルに保管し、副作用についても注意したり、職員間で共有し、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや張り合いのある日々を過ごして頂く様一人ひとりの力を活かしたお手伝いをして頂き、役割を持たれる事が活力につながる様に支援している。	一人ひとりの生活歴や楽しみごと、気分転換の支援を行い、張り合いのある日々を送られる様、お手伝いなどもして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外庭での外気浴や、近くの公園などへドライブへ出かけたリ、理美容室への送迎や、通院帰りの買い物、又、ご家族との外出なども支援している。	天候が良い日は、外庭で外気浴や散歩、ドライブなど、ご家族とも協力しながら出かけられる様支援している。	年間の行事計画に季節の花見やドライブを計画するほか、外庭での外気浴や散歩など日常的に外出の支援に努めている。ホーム内に縁側があり、いつでも日光浴などを利用されている。月に一度他の施設に入所している親族に、家族の協力のもで面会を支援するなど本人、家族の希望に沿う支援に努めている。3か月毎に広報誌を発行し、外出の様子などを載せ家族等に伝えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、買い物やお金を所持したり、使える様に支援している。	一人ひとりの希望や力に応じて、買い物やお金を所持したり、使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話したり、ハガキを出されたりされる様、支援している。	家族や大切な人に電話をしたり、テレビ電話で会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の壁に季節感のある飾りや置物をしている。教養の空間では、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激などないよう配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	季節の花を飾ったり、季節感のある飾りつけをして、利用者が居心地よく楽しめるよう工夫している。	共用空間には入居者の作品や写真のほか季節感のある飾り付けがあり、廊下は広々として障害物がなく入居者が移動しやすい配慮がなされている。リビングは清潔を保ち、空気清浄機を設置して感染対策、臭い対策がなされている。浴室、廊下には室温計を設置し、不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 本館)	実践状況(ユニット名: 新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合った者同士が、思い思い過ごせる様、席の配置を工夫したり、テレビの前を広くし、集まりやすい空間となる様している。	リビングでは、気の合った者同士が思い思い過ごせる様、席の配置を工夫したり、ソファでゆっくりテレビを観られる様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が使い慣れたものや好みのものを持ってきて頂き、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持って頂き、本人様の近況により、ベッド、タンスの位置にも配慮している。	居室は個々にあった家具の配置など入居者に応じて整備されている。居室は職員による毎朝の掃除にて清潔保持と整理整頓にて住環境を整えている、空調機器も季節の変わり目にフィルター掃除を実施している。本人希望でテレビや冷蔵庫を居室に持ち込む方もいる。お気に入りの家族写真を飾る方もおり、入居者が居心地のよく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かる様に大きな字で表示している。食堂、居室には不要な物は置かない様にして危険防止に努めている。	トイレや浴室が分かるように、大きな字で表示している。安全かつできるだけ自立した生活が送れる様、工夫している。		